



## <歴史シリーズ・第3回> 日本のエンデュランス馬術の黎明期-2

今回は日本のエンデュランスの礎を作っていただいた3人の方の話をお伝えしました。  
ここでもう一人、日本のエンデュランス馬術の発展に貢献された方を忘れてはいけません。

それは 増井光子氏 です。

増井氏は上野動物園、横浜ズーラシア動物園の園長を歴任された方です。

学生時代も馬術競技をされておりましたが、還暦近くなってからエンデュランスに興味を持たれたそうです。

このあたりの話は貴著「60歳で夢を見つけた」(2005年/紀伊国屋書店より出版)に書かれておりますので、機会があれば是非。

そして2001年にはテヴィス・カップに挑戦、完走され、その様子をNHKが特番で放送したのです。

その放送は多くの方がご覧になり影響を受けられたと思います。

その中の一人が蓮見清一氏です。

放送をご覧になりテヴィス・カップに挑戦するために乗馬を始めたという話が、貴著「アラビアン・ホースに乗って」(2005年/宝島社より出版)に書かれております。

蓮見氏はその後、テヴィス・カップを何度も完走すると同時に、エンデュランスのために「アラビアン・ホース・ランチ」を設立し競技普及に尽力され、現在では公認競技会開催数も出走頭数も一番多く、国際馬術連盟の公認する競技会(CEI)も開催するなど、日本のエンデュランスを牽引されております。

筆者も増井氏の放送を見て、影響を受けた一人です。

実は私はウエスタン競技をやっておりましたが、偶然に増井氏のテレビを見てエンデュランスに興味をもち、転向したのです。

このように、増井氏が「テレビ」という媒体を通して多くの人々にエンデュランスを広めた事が、日本におけるエンデュランス馬術発展の大きな礎になったのだと、お分かり頂けたかと思えます。

【予告】次回は「全日本が始まった頃(予定)」をお伝えします。

